

令和2年度 事務事業総点検シート(1)
[令和元年度事務事業]

一般会計					事務事業分類	A 一般事務事業
事務事業名	国際機関との連携事業				シート番号	008-065
担当部署名	文化観光	局	博物館	部	学芸	課 評価責任者(課長名)
						増田

Ⅰ. 基本情報

基本情報	1	堺市マスタープランの政策体系に基づく事業の位置付け	政策	6	まちの魅力向上と、賑わいと交流のまちづくりを進めます	後期実施計画の位置付け
			施策	5	国際交流・国際協力の推進と多文化共生のまちづくり	無
	2	事業開始年度	平成 23 年度		終了(予定)年度	年度
	3	根拠法令等(法令、条例、規則、要綱等)	特になし			
	4	関連計画	特になし			
5	事業実施の経緯	平成23年10月、堺市博物館内にユネスコが賛助するアジア太平洋無形文化遺産研究センターが国立文化財機構の1組織として開設された。 平成24年度からはセンターと連携し、市民向け事業を実施している。				

Ⅱ. 事業概要

事業概要	6	事業の実施主体(誰が実施しているのか。)	<input type="checkbox"/> 本庁 <input type="checkbox"/> 各区 <input checked="" type="checkbox"/> 出先機関 (堺市博物館) <input type="checkbox"/> 市外郭団体 <input type="checkbox"/> 地域団体・市民 <input type="checkbox"/> 民間企業・NPO <input type="checkbox"/> その他 ()			
	7	事業の対象(誰を、何を対象としているのか)	市民、博物館入館者、無形文化遺産に関心のある方			
	8	事業の目的(どのような状況にしたいのか)	アジア太平洋無形文化遺産研究センターとの連携事業を通じ、多文化共生へのまちづくりに資するとともに、歴史的につなごうの深いアジアをはじめとする国々との文化交流を促進し、地域の活性化に繋げていく。			
	9	事業内容(スケジュール、実施方法・手段、事業ボリュームなど)	アジア太平洋無形文化遺産研究センターや国立民族学博物館などの研究機関と連携し、無形文化遺産理解セミナー(年3回)、企画展示、ワークショップなどを実施する他、ユネスコ、日本の無形文化遺産に関するパネル、リーフレットの作成を行う。 また、節目のタイミングをとらえ、文化庁等とも連携し、国際シンポジウムや音楽舞台公演を行う。 <input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> その他 ()			
10	直接実施以外の主な支出先	委託事務の受注者				

Ⅲ. 投入量

項目	単位	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算	予算	
11 事業費(a)	千円	4,347	3,900	4,151	3,789	3,901	3,416	3,697	
主な事業費内訳	無形文化遺産シンポジウム、セミナー等	千円	2,805	2,910	2,655	2,750	2,441	2,154	2,018
	無形文化遺産に関する展示	千円	850	703	850	906	850	820	830
	消耗品等	千円	693	287	647	133	610	442	849
	国・府支出金	千円							
財源内訳	受益者負担金(使用料、手数料等)	千円							
	市債	千円							
	その他()	千円							
一般財源	千円	4,347	3,900	4,151	3,789	3,901	3,416	3,697	
12 人件費(b)	千円	4,980	4,980	4,980	4,980	4,940	4,940	5,030	
13 総コスト(c)=(a)+(b)	千円	9,327	8,880	9,131	8,769	8,841	8,356	8,727	

令和2年度 事務事業総点検シート(2)

事務事業名	国際機関との連携事業	シート番号	008-065
-------	------------	-------	---------

Ⅳ. 評価(測定・分析)》

ロジックモデルの考え方



事業の活動実績や成果

令和元年度実績									
活動実績と成果	14	ユネスコに記載されている国内外の無形文化遺産を取り上げて定期的にセミナーを開催することにより、ユネスコの無形文化遺産保護条約、そして世界の文化的多様性の重要性をより多くの方に理解していただくことに寄与している。国立文化財機構との共催で実施する東京シンポジウムを通じて、本市の豊かな歴史文化とそれを生かした本市独自の取り組みを首都圏から発信することができ、また、文化庁、国立文化財機構や有形・無形の研究者との連携を図ることができた。							
	15	指標名【成果指標】	単位		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
					目標値	300	300	300	300
					実績値	356	286	283	
					達成率	119%	95%	94%	
					評価	良い	普通	普通	
			算出方法・設定根拠など					参加者実数	
	16	指標名【成果指標】	単位		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
					目標値	250	250	250	-
					実績値	190	302	356	
				達成率	76%	121%	142%		
				評価	少し悪い	大変良い	大変良い		
		算出方法・設定根拠など					参加者実数: 東京シンポジウムは令和元年度をもって終了。		

事業の効率性

		区分	単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度
17	①	無形文化遺産理解セミナーの参加者数	人	356	286	283
	②	上記①にかかる年間経費	千円	2,216	2,293	1,382
	③	単位当たり経費(②÷①×1,000円)	円/単位	6,225	8,018	4,883
	備考(算出についての説明等)		経費(人件費は正職0.1、非常勤0.1)			
		区分	単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度
18	①	東京シンポジウムの参加者数	人	190	302	356
	②	上記①にかかる年間経費	千円	4,154	4,237	4,362
	③	単位当たり経費(②÷①×1,000円)	円/単位	21,863	14,030	12,253
	備考(算出についての説明等)		経費(人件費は正職0.3)			

業績の分析

目標を達成できた、または達成できなかった要因や効率性についての分析 (その他、関連情報に基づいた分析)	
19	東京シンポジウムでは、百舌鳥・古市古墳群の世界遺産登録を記念して古墳をテーマに開催したため関心は高く反響は大きかった。和紙を取り上げた展示・セミナー、東南アジアの物語や中国の伝統演劇を取り上げたセミナーも好評を得ることができた。

【分析のチェックポイント】

- 事業の達成度はどうでしたか。
- 5W2Hを踏まえて、実施過程に問題はありましたか。
- 資源投入は適切でしたか。
- 事前想定できない外的要因の影響はありましたか。
- 有効性は高いですか。低いですか。
- 効率性は向上していますか。
- RPA等をはじめとするICTを活用する余地はありましたか。
- ターゲットに応じた最適媒体の選定など、戦略的な広報ができていましたか。

令和2年度 事務事業総点検シート(3)

事務事業名	国際機関との連携事業	シート番号	008-065
-------	------------	-------	---------

《V. 点検》

＜点検の前提＞

- 新型コロナウイルス感染症の影響により、本市の財政運営は今後一層厳しくなる
- 新型コロナウイルス感染症拡大防止と社会経済活動の両立をめざす

○上記「点検の前提」を踏まえ、事業の抜本的な見直しを検討するもの。 ⇒ 確認

コロナ禍を踏まえた点検（必要性・有効性・効率性）	20	本市財政運営が厳しくなることが想定される中、当該事業を廃止できないか。	事業廃止の可能性 <input type="checkbox"/> 廃止できる <input checked="" type="checkbox"/> 廃止できない	廃止した場合に市民生活等に及ぼす具体的な影響 堺市が誘致したアジア太平洋無形文化遺産研究センターとの連携事業が実施できなくなる。
	21	(20で廃止できるを選択しなかった場合) 本市財政運営が厳しくなることが想定される中、当該事業を休止(延期)できないか。	事業休止の可能性 <input type="checkbox"/> 休止(延期)できる <input checked="" type="checkbox"/> 休止(延期)できない	休止した場合に市民生活等に及ぼす具体的な影響 堺市が誘致したアジア太平洋無形文化遺産研究センターとの連携事業が実施できなくなる。また、令和3年度はセンター開設10周年にあたる。
	22	(20で廃止できるを選択しなかった場合) 本市財政運営が厳しくなることが想定される中、事業規模を縮小するなど、コスト縮減を図ることができないか。	コストの縮減 <input type="checkbox"/> 一部廃止しコスト縮減できる <input type="checkbox"/> 一部休止しコスト縮減できる <input checked="" type="checkbox"/> 規模等を縮小しコスト縮減できる <input type="checkbox"/> 事業手法等を改善しコスト縮減できる <input type="checkbox"/> 縮減できない	縮減できる場合は具体的な縮減内容、できない場合はその理由 業務を見直しコストの縮減を検討する。
	23	(20で廃止できるを選択しなかった場合) 社会経済活動の維持・回復のほか、3密を避けるなどの市民や民間の活動変容への対応に向け、実施手法を改善する必要がないか。	事業手法の適切性 <input type="checkbox"/> 改善する必要がある <input type="checkbox"/> 改善する必要がない <input checked="" type="checkbox"/> 既に対応できている	改善する場合は改善策、その他は理由 コロナ禍の中、令和2年度のシンポジウムは中止した。
	24	(20で廃止できるを選択しなかった場合) 効果的・効率的な事業の実施に向け、右に掲げる視点から改善できないか。	効果的・効率的な事業実施(以下の観点で、改善する(または改善済)場合は <input checked="" type="checkbox"/> 、改善しない(改善余地がない場合を含む)場合は <input type="checkbox"/>) ① <input type="checkbox"/> 公民連携の推進 ② <input type="checkbox"/> ICT活用による効率化 ③ <input type="checkbox"/> 他部局との適切な連携・役割分担 関係部署名 () 関連事業名 () ④ <input checked="" type="checkbox"/> 国・府等との適切な役割分担・連携 ⑤ <input type="checkbox"/> 他政令市等との比較におけるサービス水準の均衡 ⑥ <input type="checkbox"/> その他 ()	理由・説明 アジア太平洋無形文化遺産研究センター等との連携を再検討する。
25	これまでの点検を踏まえ、今後の事業のあり方についてどのように考えるか。	事業の方向性 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止または延期 <input type="checkbox"/> 事業を縮小 <input checked="" type="checkbox"/> 改善して継続 <input type="checkbox"/> 現状を継続 <input type="checkbox"/> 事業を拡充 公金投入の方向性 <input type="checkbox"/> ゼロ <input type="checkbox"/> 縮小 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 拡大	実施年度 <input checked="" type="checkbox"/> 令和2年度 <input checked="" type="checkbox"/> 令和3年度 <input type="checkbox"/> 令和4年度以降	
		所見 アジア太平洋無形文化遺産研究センターを誘致してから、令和3年度で10年目を迎えることから、これまで続けてきたセミナー・企画展・ワークショップなどの連携事業の在り方についても再整理し、事業の効率化に努める。		